

2005年11月、「定番無視のパラオ」ロケにおいて、  
コロールベースでのダイビング、ペリリューベースでのダイビングの魅力をお伝えするはずが、  
悪天候のため、苦難の取材状況を掲載することになってしまったペリリュー取材。  
2006年2月に緊急ロケを再度敢行し、  
ペリリューエクスプレスでのリベンジを果たした。

Revenge!

# パラオ・ペリリューエクスプレス

Photo & Text : **Takaji Ochi**  
Special Thanks : **Day Dream Peleliu Station , West Plaza Hotels**

ペリリューコーナー先端、水深50mのブルーウォーターで激写したロウニンアジの群れ。リベンジ達成の瞬間だ

Revenge! Peleliu Express

[www.web-lue.com](http://www.web-lue.com)

Web-lue 2006. Spring

 **Information Link**  情報HPへジャンプ  
<http://daydream.to/peleliu/index.html>

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

# ペリリュー、リベンジ取材決定

不完全燃焼な思いを残したまま終了した、  
2005年11月のペリリューロケから3カ月

納得のいかない、不完全燃焼な思いを残したまま終了した、2005年11月のペリリューロケ。それは同年末、ペリリューステーションをオープンしたばかりで、気合いの入っていたガイドの秋野さんも同じ思いだったに違いない。別れ際「都合がつけば、来年早々にもリベンジ取材しましょう！」と言う言葉には、気休めの挨拶では無い、強い思いが含まれていた。

帰国後、僕は自分のタイトな取材スケジュールを見直した。まだパラオがベストシーズン中でスケジュール調整がつくのは2月。フロリダでのマナティー撮影を終えて帰国し、次に行くヤップロケを少し短くして、日本に帰国せずにそのままパラオから飛ばせば、ペリリューに1週間程滞在が可能だった。

早速秋野さんにメールを送った。

>>送信

『秋野さん、まだレイアウトを見栄えのするよ  
うに修正していきます。

変更も可能です。

そうですね、次回は是非誰にも負けないロウ  
ニンアジの写真で勝負したいです。

それにカジキなどの大物も。

名前は「まさる」から「ひろし」に変わってます。  
大丈夫。

ところで、2月って、もしヤップ行くのにエア  
や日程の調整がついたら、本当にペリリュー  
再度やりますか？

もし、リベンジするつもりがあるようでしたら、  
具体的に詳細を詰めたいと思います。

まだ、今回のアップもしていないのに、気が早  
いですか？

越智』

<<返信

『OK、やりましょう。

パラオに入れそうな具体的な日程分りますか？  
満月の13日前3日くらいだから8日、9日くら  
いにパラオ入りできればベスト。

ダメなら新月前の23日インでどうですか？

いずれにしても、満月、新月に向う大潮へ向う  
月回りがいいです。

満月まわりならツノダシの群れも狙えますよ。

もちろん、WEB-LUEで緊急特集組みましょう。  
ペリリュー独占でもいいし。

秋野』

——間髪入れず秋野さんから返事が返ってきた。

まだ前取材の本編アップ前に、今回のリベンジ取材が  
実現する事になった。

リベンジ!  
パラオ・ペリリューエクスプレス  
Revenge! Peleliu Express





# ペリリュー再上陸

流れは梅の上くらい、弱いから楽勝です

空港にはデイドリムの秋野さんと遠藤さんが出迎えに来てくれていた。前回は僕の到着日を1日間違えていて、誰も迎えに来てくれなかったのだが、それで気をきかせてくれたのかと思ったが、遠藤さんは別のゲストが買って来てくれたフィッシングの高価なリールを受け取りに来ていただけだったようだ。軽く打ち合わせをして、コロールに1泊し、朝のカーブ島への定期ボートに乗船して、カーブ島に向かう。同島の桟橋までデイドリームペリリューステーションのボートが迎えに来てくれる手はずになっている。これが同ステーションへの通常のゲスト送迎方法だ。

コロールで宿泊したウエストプラザホテルから船の出るジェティーまでは、前回の取材でもお世話になったホテルマネージャーのマナブさんが送ってくれた。「今シーズンは、パラオのコンディション最悪でしたよ。天気悪いし、風が止まないんですよ。水温も低いみたいですよ」。車中、そんな事を聞かされて、また不安が過る。(いや、いや、気にしない、気にしない)。

秋野さんと僕を桟橋でピックアップしたボートは、カーブ島に近いノースドックではなく、島を回って、ペリリューエクスプレスに近い、南のキャンベックの港に入った。そこで荷物を車に積んで、一度宿泊場所に入り、カメラのセッティングなどをしてダイビングに向う。そう思っていた矢先、港に着くなり「それじゃあ、コンディション良さそうだから、このままエクスプレス潜りに行きましょう」と秋野さん。(えっ、まだ何の準備もしてないよ。ここでカメラのセッティングするの……? だったら、コロール出る前に言っておいてくれれば良かったのに)と多少不満に思いながらも、(きっとコンディションが良いのを見て、今潜らないと思ったんだろうな。それに、初日の今日、ロウニンアジの群れの撮影ができれば、後が楽だしな)と思いつき、黙って桟橋にスーツケースを広げてダイビング機材とカメラのセッティングを始めた。風は北東から吹いているものの、穏やかで、天気も良い。

## いざ、エクスプレスへ

昨年12月にオープンして以来、ほとんどゲストの途切れる事がなかったというペリリューステーション。明日以降、またゲストが入って来るというので、秋野さんと二人でペリリューエクスプレスを攻められるのは、おそらく滞在期間中、この1ダイブのみとなる。着いてしよっぱながエクスプレスというのは、やはり緊張する。スキンドビングで入念にカレントチェックをした秋野さんがボートに戻ってきた「流れは梅の上くらい、弱いから楽勝です。でもロウニンアジ、近付けるかな」と一言。カレントが弱いにはほっとしたが、ロウニンアジに近づけなければ、意味がない。

エアの消費を少なくするため、前回同様、普段ゲストを連れてエントリーするポイントよりもかなりコーナー先端寄りからスタートした。確かに流れは穏やかで快適だった。しばらくはリーフトップ十数メートル

01. キャンベックの港に着くなり、スーツケースを広げてダイビングとカメラのセッティングを始めた  
02. 今回の滞在では、連日のように快晴の日が続いたが、風はなかなか止まらなかった  
03. 目の前まで迫ってきた巨大なマダラトビエイ  
04. ドロップオフに沿って、グレーリーフなどのサメ類が行き交う

ルの中層を、ドロップオフのエッジに沿って移動する。眼下のリーフトップには、バツファローフィッシュやナポレオン、巨大なハタが悠然と泳ぎ、ブルーウォーター側には、グレーリーフシャークが行き交っていた。先端に近づくに連れて、潜行を開始してリーフ上を流して行く。リーフトップの流れがかすめるせい、中層を流すよりも流れが早くなって行くのを感じる。それでも今まで潜った中でも一番緩やかだった。

流れの穏やかさ同様、濃紺の海中に、しばらくは大きな動きを感じる事は無かった。(今回も外したかな)と諦めかけた頃、最初に姿を見せたのはツムブリの群れ。激しく動き回るその群れを撮影している間に、バラクーダの群れやマダラトビエイたちが目の前をゆっくりと通過していった。にわかには海中が騒がしくなってきた。

# Revenge! Peleliu Express

—その直後、少し距離を置いて先を泳いでいた秋野さんがタンクを鳴らす音が聞こえてきた。バラクーダの群れの撮影を早々に切り上げて、音のする方に向くと、秋野さんが暗い海の先を指差している。そこからでは、何がいるのかまったく確認できなかったが、何がいるかはわかっていた。全速力で彼を追い越し、潜行を続ける。水深30m。ロウニンアジの白く輝くボディが、移動していくのが見えてきた。(これが今回のワンチャンスかもしれない。諦めるわけにはいかない)。ダウンカレントに捕まるのを覚悟しながら、さらに潜行を続ける。水深40m。頭上でポツ、ポツ、ポツと激しく音が鳴り始めた。秋野さんがロウニンを呼び寄せるためにオクトを鳴らしている。横に移動していたロウニンアジたちが、音に反応して、向きをかえて僕に向かって浮上してきた。(撮れる!)無我夢中でカメラを構え、シャッターを切った。僕はロウニンアジの群れに巻かれ、ブルーウォーターでぐるぐると旋回しながら撮影を続けた。どちらがコーナーの先端なのかも分からなくなってしまった。本当は肉眼で見てみたい。数はおおよそ800匹。これだけのロウニンアジの群れに囲まれる経験はそうそうあるものではない。しかし、その余裕は無かった。



## リベンジ達成!

浮上後、二人は何故かちょっと照れながら握手をしていた。

ちらっとコンピューターを確認すると、すでに50mをオーバーしていた。強烈では無いにしても、少しづつダウンが入っているようだった。(これ以上の深追いは止めよう)。そう判断して秋野さんにOKと浮上のサインを出した。秋野さんも同じサインを僕に返し、後は二人とも極力冷静に浮上を続けた。

二人とも、特に興奮するでも無く、淡々と浮上を続けていたが、自分の中では、初日にしてリベンジを達成し、(これで、何度も無理して 익스프레스 を攻める必要が無くなった)という安堵感に包まれていた。水面に浮上後、二人は何故かちょっと照れながら握手をしていた。



01. 水深30mにいる秋野さんの眼下に、ロウニンアジ発見!二人は潜行を続けた
02. リベンジ達成後、興奮を沈めるように、二人は静かに浮上を続けた
03. デイドリームペリリューステーションでは、通常の長さの倍はあるフロートを携行している







01. 毎月、満月前の1週間くらいで、ペリリューカットに群れるバラフエダイの大群にも遭遇した  
 02. ゲストと潜ったエキスプレス。コーナーの先端では、岩にへばりつくのがやっとの時もあった  
 03. 海の激しさと違って、島内では毎日穏やかな日々が続いた。その様子は9月号でお届けする予定だ



## その後も当たり前続けたペリリューエキスプレス

その後、ゲストが加わってのダイビング取材が続いた。今回の滞在中、天気は良かったものの、北東からの風が止まず、エキスプレスなどに潜るのが難しい日もあり、決してベストの状態では無かった。それでも、何度かゲストと一緒にペリリューエキスプレスやペリリューカットを潜ったが、今回はいつも何か大物や群れに当たり続けた。満月前の繁殖のために、ペリリューカットに数千匹単位で群れるバラフエダイの群れがエキスプレス側に群れていたり、バラフエダイの群れ狙いで入ったカットでは、マーリンにも遭遇した。ダイビング前のボート上で50頭程のオキゴンドウの群れにも遭遇し、水中での撮影にも成功した。

今回は緊急特集のため、リベンジ達成に関する記事にとどめる事にする。残りはペリリューステーション、来シーズンイン前にダイビングだけでなく、島の上での生活も含めてお伝えしていきたいと思っている。



お互いが信頼しあえたからこそ達成できたリベンジ取材。この海を毎日のように潜り続けるガイドの秋野さんは、僕にとって尊敬に値する



04. 北東風が吹き続けたが、湾内は穏やかで長閑な風景が広がっていた  
 05. カレントの早さに興奮したダイバーたちの吐き出したエアが、まるで水中で爆発があったかのように弾きだされる  
 06. ペリリューコーナー付近で、スキンドビングで撮影した、オキゴンドウの群れ。何が出るかわからないのがこの海の魅力だ

